

専門領域別研究発表 | 専門領域別：体育社会学

📅 2025年8月29日(金) 11:20 ~ 12:15 📍 1201教室(教育研究棟 1街区 2階 1201)

[3a305-06] 体育社会学／口頭発表③

座長:谷口 勇一(大分大学)

11:20 ~ 11:45

[02社-口-05]

アメリカの高校運動部活動の実態に関する調査研究 (3)

テキサス州でのフィールドワークをもとに

*中澤 篤史¹、束原 文郎²、小石川 聖¹ (1. 早稲田大学、2. 帝京大学)

11:50 ~ 12:15

[02社-口-06]

アメリカの高校運動部活動の実態に関する調査研究 (4)

ミシガン州公立校の事例分析

*束原 文郎¹、中澤 篤史²、小石川 聖² (1. 帝京大学、2. 早稲田大学)

専門領域別研究発表 | 専門領域別：体育社会学

📅 2025年8月29日(金) 11:20 ~ 12:15 📍 1201教室(教育研究棟 1街区 2階 1201)

[3a305-06] 体育社会学／口頭発表③

座長:谷口 勇一(大分大学)

11:20 ~ 11:45

[02社-口-05] アメリカの高校運動部活動の実態に関する調査研究 (3)

テキサス州でのフィールドワークをもとに

*中澤 篤史¹、東原 文郎²、小石川 聖¹ (1. 早稲田大学、2. 帝京大学)

アメリカの高校運動部活動は、どのような形態で、どのように実施されているのか。私たちは、日本と同様に高校運動部活動が盛んなアメリカの実情を調査して、両者の共通点や相違点などを分析することで、アメリカから学びながら、日本が抱える問題を解決したり今後のあり方を展望しようと継続的に研究している。

アメリカの学校運動部活動は、日本のモデルになってきた一方で、その現状がどのようなものなのかに関する先行研究は、十分ではない。そこで昨年度の本学会大会では、試行的な研究成果として、カリフォルニア州とミシガン州で実施したフィールドワーク調査の結果を紹介した。本発表では、その継続的な調査研究の成果である(3)として、あらためて調査プロジェクト全体のねらいを説明するとともに、テキサス州で実施したフィールドワーク調査の結果を元にししながら、アメリカの高校運動部活動の実態・背景・課題について探索的に分析する。なお、本発表は独立した内容を持つものではあるが、関心のある聴者には(4)の発表も合わせて聞いてほしい。

専門領域別研究発表 | 専門領域別：体育社会学

📅 2025年8月29日(金) 11:20 ~ 12:15 📍 1201教室(教育研究棟 1街区 2階 1201)

[3a305-06] 体育社会学／口頭発表③

座長:谷口 勇一(大分大学)

11:50 ~ 12:15

[02社-口-06] アメリカの高校運動部活動の実態に関する調査研究 (4)

ミシガン州公立校の事例分析

*東原 文郎¹、中澤 篤史²、小石川 聖² (1. 帝京大学、2. 早稲田大学)

本研究は、ミシガン州の公立高校における運動部活動の実態を、現地校長・アスレチック・ディレクター（以下、AD）等への聞き取りと、学校ハンドブック・Web情報等を活用して明らかにしたものである。教師がコーチを兼任し、生徒の学業との両立を重視する点は日本と共通するが、大きく異なる点も多数存在した。たとえば校長・ADを中心とする運営組織体制、施設整備費の起債、スポンサー契約、放映権・収益の管理、地域大会から州大会への接続、明確な出場資格管理など、すべてが説明責任を伴った制度設計のもとで運営されている事が挙げられる。ビジネス的要素も利潤追求でなくより充実した教育環境の実現に資するものであり、むしろ積極的に奨励されている点が特徴的であった。

アメリカの高校スポーツ文化の高度な発展の背景には、ユーススポーツを教育の重要な柱とみなす市民的合意と、スポーツを通じた人間形成に対する強い信念、すなわち、スポーツへの信仰に近い情熱が根底にあると考えられる。

なお本発表は、独立した内容を持つものであるが、中澤ほか「アメリカ高校運動部活動の実態に関する調査研究（3）テキサス州でのフィールドワークをもとに」と連動した共同調査研究プロジェクトの一部である。